



題卷

可憐なりくえんが能くもくし
蓮の浮葉

蓮の浮葉(題卷)

中村俊定文庫

水口

上田潮尾
蒼生佐藤
長祥庫書



ヒトハイサオセヒタユトモ
人老縦念息登々母玉簪
不祈忘物と申え申るハ掛
るういさめ良養在少の
御歌ありはるるもや
津代ささり後の子さ
いやーささりあき思ひあ

上野五村
勇水

深き淵に身をまかせしは
今更いふむ何事か
みよあやふしき事と
志のまじ

一桂庵勇水

寛政六甲寅歳五月



附

一 素心ゆき
終よあはれ

一 松人
行要たよあはれ
あはれなまよあはれ

一 追悼
追言白紙の末

上品麻檮
素輪居士

祥也

かんきく水とかなんて〜師に

宿中抄

宿中抄

善泉抄成も〜心きま

遺言

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

き〜ひい〜つ〜のま

歌仙

素輪居士

海を渡る山崎のこころは

舟を渡るこころは

素七

舟を渡るこころは

木所

舟を渡るこころは

李雷

舟を渡るこころは

麦口

舟を渡るこころは

涼楚

舟を渡るこころは

丁殿

舟を渡るこころは

麦童

舟を渡るこころは

星露

舟を渡るこころは

素雄

舟を渡るこころは

輪賢

舟を渡るこころは

素东

舟を渡るこころは

春令

舟を渡るこころは

素同

舟を渡るこころは

日祖

けいしんしんもあまの原

素太

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素三

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素四

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素五

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素六

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素七

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素八

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素九

かく進むるれりあまの原

素凡

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素岫

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

輪太

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素甫

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素明

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素五

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素丹

いづれいり死しぬ人なりあはれむ

素輪

朝もつとてささるるみづはくはる

庭山

清くはるる影のけしき

古竜

こころのあやかしきとほけ

麦砂

ささるるまよのけしき

枕伝

あはれもつとてささるる

枕筆

老翁のあはれささるる
あはれささるるささるる
ささるるささるる

ささるるささるるささるる

枕伝

ささるるささるるささるる

麦砂

ささるるささるるささるる

素七

ささるるささるるささるる

茶砂

ささるるささるるささるる

伏伝

ささるるささるるささるる

李曹

紙のうらみよきとてしるし

柳坡

ふたふたは鳥尻まきしれ雨きり

隅齋

まゆあしうらぬ今年のしるし

秋水

物しるしはあまきりハあゆ中こ

真薄

うらみよきとてしるし

子脩

辛島は垣よ干しし ぼけり

禾石

よきふれまきとてしるし

踏花

あしらのひしきりしるし

孤梅

うらみよきとてしるし

蘭舎

雨はきりしるし

居由

うらみよきとてしるし

缸

あしらのひしきりしるし

茶藁

あしらのひしきりしるし

龜久

拈香

いふも〜〜〜いふも〜〜〜い
〜〜〜いふも〜〜〜い
〜〜〜いふも〜〜〜い

長物〜〜〜いふも〜〜〜い

了義亭

素七

百々四

好〜〜〜いふも〜〜〜い

全

ま〜〜〜いふも〜〜〜い

法〜〜〜いふも〜〜〜い

甘露

〜〜〜いふも〜〜〜い

〜〜〜いふも〜〜〜い

〜〜〜いふも〜〜〜い

茶砂

〜〜〜いふも〜〜〜い

〜〜〜いふも〜〜〜い

全

ね〜〜〜いふも〜〜〜い

全

あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき

うけしむるはなはたしき 枕袋

あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき

うけしむるはなはたしき 全

あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき 全

あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき 全

あはれなるはなはたしき


~~~~~も~~~~~行力夏也

輪太

伊~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

輪賀

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦丹

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

玄竜

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦壘

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素五

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦南

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素切

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

玄女

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素糸

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

口廻

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素回

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素太

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

古道

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素由

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素計







道にまゐる人よ~~~~~り宮 行具 唱露

ち~~~~~羽成ふらむわ月雨 貝船 志久

~~~~~見えはほ~~~~~ 玉布

~~~~~物迄ある~~~~~ 宝次 免了

~~~~~の雨はは~~~~~ 小島 竹井

~~~~~け~~~~~ 美口 羽輪

~~~~~夏~~~~~ 素仲

~~~~~の~~~~~ 素因

青水の中く~~~~~ 稻片 素牛

あな人と~~~~~ 沢渡 素光

~~~~~の~~~~~ 中ノ糸 玄輪

杜~~~~~ 吾妻 志明

何~~~~~ 梅城 素景

夏~~~~~ 八海 祖川

~~~~~ 長政 寶輪

~~~~~ 飯塚 免柳

海おち〜とふいふ〜りる子 小分 麦牛

美人お枝去月〜死はけれぬ雨 可紫

〜ふ〜し〜のむれ〜白〜南 佃 素十

〜お世〜と〜あ〜り〜〜蓮おむ 去築 其輪

〜〜〜り〜り〜〜あ〜と〜おん〜 約形 界苦

一喜〜と〜もれ〜あお〜り〜〜 換室 如輪

〜〜〜も〜あ〜〜〜や〜反お月 辰輪

一喜〜と〜と〜〜〜〜は〜〜 換室 素己

入〜口と懐〜〜〜〜や〜ありあ 輪雪

お〜〜〜〜〜お〜あ〜や〜さ〜おむ 二又 大輪

〜〜〜〜〜り〜〜し〜お子おあ〜 三層 浪井

美おお京少雨ほ〜〜〜お 其明

海〜〜〜〜〜お〜お〜お〜お〜 上世 柳祖

〜〜〜〜〜お〜お〜お〜お〜 釜編 梅香

おれ〜お〜お〜お〜お〜お〜 ホト夕 世は女

笛お〜〜〜お〜お〜お〜お〜 ホト夕 直之

山行

素平

麦友

素命

宿白

免山

了雅

东乘

我子川

素法

直道

川夕

章翰

山鶴

麦上

麦柳

引び 然露

吾書 家

鳥明

武川城 吹原

全

如鶴

雁里

...

...

...

...

...

...

馬鹿すーあーくハよのせー

京 蟹栗煮

街の所ーいーよはるゆ

河内城南 如隔

夏竹よーいーゆゆハ吹流れ也

武川城 冷水

ちーいーいーゆゆゆゆゆゆゆ

玉村 可勇

ちーいーいーいーいーいーいーいー

秀水

いーいーいーいーいーいーいーいー

梁筑

まーいーいーいーいーいーいーいー

関雪

いーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいー

京 園文

いーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいー

京 方壺

いーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいー

京 雲市

茶略

人々々々々々々々々々々々々々々々

作茶田記
茶葉

々々々々々々々々々々々々々々々々

八衢

々々々々々々々々々々々々々々々々

枝青

々々々々々々々々々々々々々々々々

隅赤

々々々々々々々々々々々々々々々々

踏花

部公魚々々々々々々々々々々々々

蘭壽

茶略也々々々々々々々々々々々々

孤梅

海々々々々々々々々々々々々々々々

赤石

杜松を以て々々々々々々々々々々

柳巴

々々々々々々々々々々々々々々々々

梅碓

々々々々々々々々々々々々々々々々

秋水

名々々々々々々々々々々々々々々々

龜文

々々々々々々々々々々々々々々々々

真原

々々々々々々々々々々々々々々々々

子晴

後々々々々々々々々々々々々々々々

ノ如く也
雨汁


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

西奴  
おん時廣

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

文冊
渡河

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

蘆原  
上良相生  
子枝

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

杜の~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

竹上汎坊

自夜

川原

あゝ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

枕袋

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

楳葉や〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

は〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

麦四

の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

桶は〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

新〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

杉雪

午〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

二〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

竹〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

は〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

成輪

け〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ふ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ゆ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

入おれぬよ新あゝ野向ふ水

李雷

月涼一夕をくわくわく井の底

くくすえ中くくくすえ水打鳴

空声や云くくくすえ丁印くく止

海生波才九くくくあゝくくく良

凉楚

くくくあよくくくくくくくくく

あゆむくくくくくくくくくくく

所迄母屋よくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

后十

くくくくくくくくくくくくく

八羽中くくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

素雄

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

お代わあなれ〜とくし猫の版 翠明

こゆ〜もまかえ〜とんちむきや

ほ〜らわ 紺〜ははとせり

か〜ま〜ちゆら〜せりや

甲ゆ〜とよまあゆら〜と南 丁振

ま〜ゆら〜ま〜かあ〜なまむ

お〜ま〜お〜は〜は〜張のゆらや

ま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ま〜ゆら〜は〜ゆら〜ゆら〜ゆら 輪貫

ま〜ゆら〜ま〜ゆら〜ゆらゆら

お〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら

か〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら

ゆらゆらゆら〜ゆらゆらゆら 麦南

ゆらゆらゆら〜ゆらゆらゆら

ゆらゆらゆら〜ゆらゆらゆら

ゆらゆらゆら〜ゆらゆらゆら

梅枯くゆきかほりくくくく
女
多物見

くくゆとゆくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

子産

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

麦屋

栗風

あしはら〜あしはら〜あしはら

素丹

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

素丹

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

素丹

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

素丹

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

あしはら〜あしはら〜あしはら

素丹

ふたつの中へも原あえておこし

孝回

影あふゆゑにさかすかたはな

もさかすか苗のれにちま

影しれに幸かたの樹に夕は雨

あつらふにさかすかたはな

孝太

かゝるに自らさかすかたはな

影あふゆゑにさかすかたはな

影あふゆゑにさかすかたはな

あつらふにさかすかたはな

可重保

あつらふにさかすかたはな

あつらふにさかすかたはな

あつらふにさかすかたはな

あつらふにさかすかたはな

七竜

あつらふにさかすかたはな

あつらふにさかすかたはな

あつらふにさかすかたはな

浪よこしき帰れりる浦へまき七

ふ甲中一舟はまきの落原一

ほくくくまきの原舟の部へりた

こめたしよまきの原舟の部へりた

つる七の原舟あつてしよまきの原舟

夕郎中流へりてしよまきの原舟

秋の舟あつてしよまきの原舟

こめたしよまきの原舟の部へりた

こくくくまきの原舟の部へりた
曾水

こめたしよまきの原舟の部へりた

月よこしき山をりてしよまきの原舟

山よこしき山をりてしよまきの原舟

こめたしよまきの原舟の部へりた
ま奴

こめたしよまきの原舟の部へりた

満——の——をハ相付——

らうけけいあま——養——かん

ま——唐封——心——しまれ秋

一——の——ハ——小館

諸人の心——行——

只——の——も——静——

ま——の——味——

も——の——ま——

素十

素十

素十

古道

雪鶴

可行

芳窓

亭

乃——の——の——

唐——の——の——

あ——の——の——

う——の——の——

あ——の——の——

あ——の——の——

あ——の——の——

あ——の——の——

桃里

素寸

素寸

素眼

抱子

不吸

素窟

素窟

おきやうとあ〜ち〜あやゆん

麦来

かたしち〜友と集〜月と下

其抱

きり〜れ〜り夜は〜あやうめ

庭山

のれ〜あ〜ん〜蠅と追〜る

素更

をけ集〜機織忘の〜子履

きー

あけ〜指〜ゆ〜蟬〜り〜か

祖屋

けり〜り〜きり〜り〜の〜き〜り

男瓶

きり〜り〜あ〜り〜り〜夕〜馬

渡凡

きり〜り〜きり〜り〜丸〜板

善扇

あ〜り〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

麦松

けり〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

去卯

あ〜り〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

麦明

あ〜り〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

寿元

あ〜り〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

相祖

あ〜り〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

、

あ〜り〜り〜あ〜り〜り〜あ〜り

素已

抄

けりぬるはるや枯ゆゑ
辰輪

橋やむらぎの音とゆゑ
如水

いと人しはる海一夏あま
輪雪

とてはるや屋とてあはれこのけ
素光

かたはるやうにけりて自由ゆゑ
麦流

らるるはるやとてゆゑこのけ
素象

けりてけりて今新たうりゆゑ
素亥

あはれぬるはるやとてゆゑ
麦上

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
見視

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
又山

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
版楳
兔上

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
上野田
芝角

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
植地
一丁

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
素正

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
素牧
亭組

ゆゑに又照るはるやとてゆゑ
吟水

辰輪

如水

輪雪

素光

麦流

素象

素亥

麦上

見視

又山

版楳
兔上

上野田
芝角

植地
一丁

素正

素牧
亭組

吟水

枝の梢よらんもあやしく〜〜〜
素那

隙よ〜〜を流す〜〜〜
吾妻 如泉

翁と翁〜杉と松あ〜高き〜
上植木 圭輪

旧うらや〜白く〜輝あ〜深〜
生不 章輪

ありあや〜さあ〜さ〜あ〜あ〜
新河原 鶴秀

〜白蓮〜〜〜ゆ〜ゆ〜
横塚 壽松

〜あけ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
小高 東川

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
生不 可笑

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
西牧 白貨

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
伊勢橋 芦舟

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
相生 色面

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
伊勢橋 二唱

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
佃 素庚

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
素十

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
素十

水鏡多々々名は山世は月夜 足雄

川よりよき梅をみる唐の舟 玉美

あまの足るふくく一忠女命 同玉

かりとる形に形を移めず 涼好

暖くしぬれあまをわがわが 希安

くかくくくくくくくくくくく 南夏

名月の中あまをよみよみ 湖月

懐中穂子伸ゆくくくくくく 龜考

くくくくくくくくくくくく 赤白

わのあまはらぬくくくくくく 書那

諸公文通

二層あくくくくくくくくくく 紫夏

白松の影くくくくくくくく 雨文

あゝあせし倦ゆくくくくくく 雲帯

山崎はあやあやあやあや 麦二

日北行と渡物の中にあつて
 風の宿こころをいふれきり、井
 夏よこころを楸の葉をいふ
 夏の宿と舟の宿をいふ
 晴や中かきまゝの雨後る運
 夕や世はなほさかど夏の色
 晴きくく柿おのり後の声
 まよお雨降こころをいふ

たる
 二方堂

如毛

一室やむらさき色に
 紫花の宿こころをいふ
 舟君の舟こころをいふ
 まよあよまよあれ柿こころをいふ
 雨こころをいふ
 寂らんこころをいふ
 秋をいふ
 人々舟楫舟の宿をいふ

全長
 虚白

徐生

东水

鹽路

柳也

知白

白乾

草花揺りしり〜日影のあかり

今原 翅前

ほろろとハもさ〜もろせり

氏青林 秋 支元

むろ〜れはむの〜まはあ入りか

鏡若世念 長西

〜の〜思んやけき〜まあ〜

長山壽 菊園

夕月の中落ハ思れ〜うと〜

利水

何れか〜一おあ〜や海人像

飛澤 作母

揺る〜る〜ちよの柳〜

若林 小雅

うねり〜あ〜よ風のま〜原

京 其成

涼風ハあ〜り〜あ〜

肩山

中〜れ〜り〜り〜

高古園 蓮里

山〜と〜境〜境〜け〜れ〜原〜

如野

入〜り〜り〜り〜

尾引

厨〜院〜茶〜茶〜

里芳

岸〜一〜角〜角〜枝〜の〜か〜の〜

原風

雲〜の〜あ〜り〜り〜

若林 鬼彦

ま〜り〜り〜り〜

あ蘇 唇風

枯し野や入定塚此の此者

素九

玉柳より心一子番此嬌りり

横室

画山

玉柳より向此片由此こち此り

放牛

山ハまゝのまゝにや少少のまゝ此由

三矢

常和館原して居朝よ 唱

山月

馬扱扱より和川色此に有れ秋

相生

奇江

千を和清此松此汝りり

八幡

可重

利さしよ一日似りりまゝの由

常列此下

巴咄

水龍よりうまを枯ゆしつる君と梅葉

とふふととふふととふふととふふととふふと

とふふととふふととふふととふふととふふと

とふふととふふととふふととふふととふふと

とふふととふふととふふととふふととふふと

とふふととふふととふふととふふととふふと

とふふととふふととふふととふふととふふと

とふふととふふととふふととふふととふふと

海とてあ備りてゆまらんはれはるき
精ゆとてしつ律のゆきゆいゆり
きとてゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

あつひき〜んち〜中居れはあか
か〜るる〜はれあ〜あま人の
友あま〜あま〜あま〜あま〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
人〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

解説 一 廿世

本久菴

蘇砂

夏とあそび

春の福れぬ 一 夏に輝く花みく
糸の月雲の涙にありたり
ふれはるるよ 一 夏に輝く花みく
これえと 一 そのなき
よふ人 一 夏に輝く花みく
風流はま 一 夏に輝く花みく
年乃さ 一 夏に輝く花みく

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

廿
一
日